

令和1年9月2日

芦屋市企画部市民参画課
課長 浅野 令子 様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしや NPO センター
事務局長 橋野 浩美

芦屋市防災総合訓練協力報告書

- 1 開催日時：令和1年9月1日（日）7：00～15：00
- 2 担 当：橋野、二宮
- 3 運営者数：11名（リードあしやブースのみ）
- 4 来場者数：740名
- 5 協力団体：クラーク記念国際高等学校防災部
- 6 内 容
 - (1) 目 的：災害時対応に向けての取り組み及び、地域コミュニケーションを深める。SNSを使った取り組みを伝える。
 - (2) 内 容：SNSに代表される Twitter、LINE を日常から利用するためのワンポイントレッスン及び、芦屋市防災マップを storly（Web アプリ）を利用しての Web 化
- 7 振り返り：
 - 【展示ブースについての感想】
 - ・逃げマップ：訓練では役立つが、有事の際の実用性には疑問が残る。
 - ・防災VR（シュミレーション）：資料よりも分かりやすい。
 - ・ダンボールベッド：ダニ対策など災害時に役立つ（体が痛くなり難い）。
 - ・土砂災害シュミレーション：堤防などのしくみが分かりやすい。
 - ・新聞紙コップ・スリッパ：作りやすく、使いやすい。（ラップ等も使用）
 - ・ドローン：人が行けない現場状況の確認や、救援物資の配達可能
 - ・災害食：水不要のカレー、逆に簡易で温められる工夫を施した食品など豊富になっている。
 - ・起震車：実際の震度の体験（免振していても揺れる）
 - ・救命講習：日常的に体験することでいざという時に動くことができる。
 - ・配布グッズ：防災グッズを知り、手元に置くきっかけとなる。
 - ・防災イベント：楽しんで学べ、交流の場となり、過去の災害を伝える場となる。
 - 【運営について】
 - ・災害時対応セミナー、第1回目の講座内容であった、LINE のワンポイントレッスンは、来場者（特に高齢者）の方に講評であった。
 - ・学生も交え、10人での運営であったが、声掛け無く持ち場を離れることが多々あり、グループ管理がうまくいっていなかった場面もみられた。

- ・第2回防災時対応セミナー「防災時の食」に関する来場者に説明ができた。
- ・全体の来場者が思ったより少なかったように感じられた。
- ・今回の事業自体は学生たちも学びながら楽しめた。今後も協働事業を進めたい。
- ・芦屋市の防災マップ（紙データ）を Web 化するにあたっては学生からの同意を得、12月の防災セミナーでの街あるきの構想ができあがりつつある。

以上

